

事実に基づくと感染対策を

今の「ウイズコロナ時代」に必要なリテラシーとは何か



フォーラム実行委員長の越智文雄氏
(10月22日午後、道新ホール)

「北海道新型コロナウイルス感染対策・防災フォーラム2021」(同実行委主催)が10月22日午後、札幌市中央区の道新ホールで開催された。「コロナを乗り越え新たな生活へ——北海道の挑戦——」をテーマにした同フォーラムには、評論家の小川榮太郎氏をはじめスペシャリストとして日本除菌連合アンバサダーでプロレスラーの蝶野正洋氏などが登場。「ウイズコロナ」時代に必要なリテラシーについて独自の提言を行なった。WEBでも同時配信されたこの日の模様をレポートする。(佐久間康介・工藤年泰)

プロレスラー 蝶野氏も登壇

フォーラムのトップバッターは、この日の司会も努めた防災士・気象予報士の菅井貴子氏。その菅井氏は「自然災害と新たな防災体制」と題してマイクを握った。

「札幌では今年10月半ばに27℃以上になる日が出て、10月として観測史上一番の温かさだった。今年は記録的猛暑で、記録的な日照の多さ、記録的な雨不足となったが、「記録的」や「観測史上一番」という言葉を使う頻度が増えている。北海道の気象観



政府やマスコミのコロナ対応について批判した小川榮太郎氏

測の歴史は100年以上あって全国で一番長い。だから「観測史上一番」という言葉がここから出るということは、かなりの異常気象だと思っしてほしい」

このような点に注意を促した菅井氏は「災害対応には、信頼できる情報を得ること、備えをすること、意識を変えることの3点が大事。コロナ禍が一段落し、これから経済活動が再開されるが、環境への投資が増えていけば自然循環や防災対策にも

つながる。今後は防災力をしっかり備えた北海道を実現してもらいたい」と提案した。

続いて登壇したのは、プロレスラーで日本除菌連合アンバサダーの蝶野正洋氏。一般社団法人NWHスポーツ救命協会代表理事、公益財団法人日本消防協会消防応援団などの肩書も持つ蝶野氏は「家族と自分の生命を守るために」をテーマに講演。同氏は、日本除菌連合アンバサ



TVでも活躍している菅井貴子氏

ダーの経験を踏まえて「コロナの感染対策は、防災ほどしっかりした情報が整理されておらず、誤った情報が多々ある。自分たちでできる予防策と、公共施設などでの対策を両方していかないと、人の行動そのものが止まってしまう。感染対策は、みんなの知識を生かして進んでいくべき」と訴えた。

蝶野氏の問題提起を受けて、ひとつの対策を提示したのが三重大学大学院教授の福崎智司氏だ。

福崎教授の演題は、「命を守る——新型コロナウイルス感染対策と次亜塩素酸」。同教授は「本来なら次亜塩素酸はコロナ対策の切り札なのに、国民を指導する側の人たちは十分な認識を持っていない」と指摘。「次亜塩素酸は世界で170年以上の使用実績があり、日本には世界に誇れる積み重ねてきた塩素消毒技術がある」としたうえで、次亜塩素酸水がコロナウイルスを不活化させる有効性を具体的に解説。水道水の塩素濃度を少し高めるだけで衛生的な手洗い、うがい、洗顔ができると強調した。

情報リテラシーを高める努力

3氏の提言後に登壇した日本除菌連合会長で一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事でもある越智文雄氏(あかりみらい社長は、「コロナ禍の感染対策に必要な新たな戦略とは」テーマに講演した)。

越智氏は、「やれることがあるのなら、今すぐやるのが危機管理の要諦。自治体の首長や危機管理の担当者には、正しい情報を掴んだら即実行しなければならぬ。今晚、災害が起きて避難所に行かなくてはならなくなる可能性もあり、その場合、避難所の除菌対策が万全かを問われるからだ。最近ではコロナ陽性者が減ってきたが、常に最悪を考えておくのが危機管理。自治体関係者は、情報をもっと貪欲に収集してほしい」と訴えた。

最後に登場したのは評論家の小川榮太郎氏。「間違いだらけの新型コロナ論——専門家、マスコミの迷妄を正す——」と題した講演の中で小川氏は「政府は、科学性に欠けるコロナ対応を2年近くしてきた。その中で分かったのは医療現場とデータと政権がバラバラだったということ。この間、有効性がまったくわからないのに『飲食店で酒は飲むな』などと強い自粛が求められたが、そういう根拠はどこにあるのか。おかしいことだらけだ」と指摘。

そのうえで、「今は何かとコロナ至上主義になっている。新型コロナのPCR陽性者が、医療のすべての判断要素になっている状況はあまりにおかしい。限られた医療資源が他



人気プロレスラーの蝶野正洋氏

の疾患の人たちに行き渡っていないことを考え直さなければならぬ」とした。

指摘はマスコミ報道にも及んだ。「これまでマスコミは、統計上の数字の判断を抜きにコロナの陽性者だけをピックアップし、毎日大騒ぎしてきた。他の疾患全部の数字も出したうえで、どのくらい深刻な病気が示さなければ公平とは言えない。

例えば昨年日本人の死亡原因1位は例年と変わらずがんだが、そのがんで昨年亡くなったのは37万8356人、コロナで亡くなったのはその何十分の1に過ぎない。マスコミがコロナで大騒ぎをしている横でどれほど命が失われたのか。こういうことを抜きに「コロナ患者の命を

粗末にしてきた』などという言葉で軽々に使う彼らを、私は人道上的観点でも許せない。この国のコロナ禍で行なわれてきたのは、実は他の命を粗末にすることだったのではないかと語気を強めた。

最後に小川氏は「政府は、あらゆる公衆衛生分野から専門家を募り幅広い対策チームを作ったうえで、現場の状況が分かるように抜本から官邸と厚労省、医師会、保健所の紐づけを再構築すべき」と提案。

「ウイルスはその姿を変え、ずっと変異を続ける。新型コロナ以上のパ



次亜塩素酸の有効性を説いた福崎智司教授

ンデミックが来る可能性もある。そういう未来の危機に対して、私たち一人ひとりが命を守るためにもっと勉強し、正確な情報を知り、知的にならなければならない。そうしなければ、どこかで非常に痛い目にあう可能性がある」と結んだ。

次亜塩素酸水活用にゴーサイン

このフォーラムで取り上げられた次亜塩素酸水について、偶然にも開催前日に大きな動きがあった。

10月21日、厚生労働省新型コロナウィルス感染症対策推進本部は、新型コロナウイルスの消毒方法のひとつとして有望視されていた次亜塩素酸水の空間噴霧について「個々の製品の使用に当たり、その安全性情報や使用上の注意事項を守って適切に使用することを妨げるものではない」とする事務連絡を全国各自治体の衛生主管部に到達した。

これは、これまで「推奨しない」としていた次亜塩素酸水の空間噴霧について同省として見解を修正、事実上認める方向に転換したのと言っている。

この厚労省通達の影響については今後、注視していきたい。

資源化事業、事業系ごみ収集運搬事業、調査啓発事業などを通じて
清潔で快適な資源循環型の街づくりをめざしています



一般財団法人 札幌市環境事業公社

札幌市中央区北1条東1丁目 サン経成ビル

☎(011)219-5353 FAX(011)219-0053

<https://www.kankyousapporo.jp>